

生物物理からの話題

阪大・基礎工 三井利夫

参照文献（強羅研究会、1984年10月13日）

1. A. M. Turing: Proc. London Math. Soc., Ser. 2 42 (1936) 230-365. “Turing機械”、“Turingの提唱”等。
2. 三井利夫、菅田一博、広野力、中西健二：“生物物理学序説－神経膜の興奮、思考の基礎論－”（共立、1983）。
3. S. Ulam: Amer. Math. Soc., Providence Vol. II (1952) 264-275. cellular automata についての最初の記述。
4. J. von Neumann: “Theory of self-reproducing automata”, ed. A. W. Burks (University of Illinois Press (1966)). 自己増殖する機械の存在を理論的に例証。
5. J. W. Thatcher: “Universality in the von Neumann cellular model” pp. 132-186 in “Essays on cellular automata” ed. A. W. Burks (University of Illinois Press, 1970). von Neumannの理論のより一般的な定式化の試み。
6. “Cellular automata” (Proceedings of An International Workshop), Physica D 100 (January, 1984). セルオートマトン理論が物理系の研究に役立つと考えられ始めてきた。
7. フライアン・ヘイズ：サイエンス（1984年5月号）124-133。文献6の内容の紹介など。
8. 物理学会年会シンポジウム（予定），“数理的体系としての生物物理学は可能か”（1985年春、京都）